

VENTO DE BRASÍLIA ブラジリアの風

2015年12月 No.7

夏のクリスマス。子どもたちも大きくなりました！



宣教の現場に共に立って

敬愛する「祈りの友」の皆様へ

早いもので、ブラジル宣教生活も4年目に入りました。こちらは雨期に入り暑いクリスマスを迎えようとしています。日本の皆様にあっては如何でしょうか。

わが家は皆健康が守られ、子どもたちも日ごとに成長し、ただただ神様の憐れみと恵みを実感する毎日です。日本の皆様の絶えざる祈りと御支援あつての私たちの生活と働き、改めて心からの感謝を申し上げます。有難うございます。

さて、先月(11月)は、教団の国外宣教委員会から二名の先生(朝岡師、石原師)が視察訪問に来て下さいました。先生方との親しい懇談や交わりの時は、私たちにとってはオアシスのようで、渴いていた心に真清水が流れ込んでくるような癒しと回復の時となりました。宣教の現場に共に立ち、そこにある葛藤や喜びに耳を傾けて下さったことは何よりの慰め、力となりました。片道30時間のフライトと12時間の時差、またこちらでの各集会での説教奉仕など、心身とも

に多大な犠牲を払って、ブラジルにいる私たちを慰問して下さいました。

私自身が気づかされたことは、異国の宣教地に適応するために、知らず知らずのうちにストレスや疲れをため込んでいたこと、また、宣教師としてのアイデンティティや靈性を保つことに困難を覚えていたこと等です。先生方は、私たちの外面の必要はもとより、内面の必要にも耳を傾け、具体的なアドバイスやヒントを示して下さいました。

私がそこでいただいた揺るがない確信は、日々の慌ただしい生活の中にあっても「みことばと祈り」の奉仕に全身全霊を傾け、人の力ではなく、主のみことばと御靈の力が現れることを何よりも願ひ求めていかなければならないということでした。

ブラジルはカトリック大国といわれ、数字上からすると、宣教の必要性が少ないように見えますが、日系ブラジル人(約140万人)のクリスチャン人口はわずか2%(安井師による)です。まだまだ宣教の不毛地帯といえるような場所が

このブラジルに広がっています。「マケドニアの叫び」を聞き取る靈的な耳をいよいよ働かせながら、飢え渴いているたましいに「いのちの水」である主イエスご自身を証ししていきたいと願わされています。

息子たちは、日本の先生方と「ババ抜き」や将棋を楽しみ、最終日の夜は、朝岡勝先生がご自分の献身の証しを交えて息子たちに信仰と献身のお勧めをして下さいました。私たち夫婦は、朝岡先生を通して語っておられる主ご身の熱い思いとご臨在を感じずにはいられませんでした。子どもたちを含めて、主がこの地で為そうとしておられる宣教の御業を期待し、日々主に信頼して歩みたいと願っています。引き続きお祈り下さい。クリスマスの祝福を祈りつつ。

「わたしが与える水を飲む者は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます」ヨハネ4:14

2015年12月7日 浜田献

ブラジル生活あれこれ

「主はあなたを見放さず、あなたを見捨てず、主の宮の奉仕のすべての仕事を完成させて下さる。」 1歴代28:20

【恵みと感謝】陽子記

○今年から始めた日本語学校での奉仕は試行錯誤しながらも、主がいつも知恵を与えて下さり無事に1年を終えることができました。この働きを通して、こどもたちの心に福音の種まきができるようにと祈り続けた日々でした。

○お手伝いさんに週2回半日ずつ手伝ってもらいながら、"Dona de casa"(ドナジカーザ：ブラジル語で主婦"家の主"の意味)の役割をなんとか果たせました！
○やむを得ず(?)「スマホ」デビューしましたが、予想以上に楽しく色々な方々との交流を楽しんでいます。ポルトガル語の上達にも役立っています！

○治安や衛生上の問題で、家族で遊べる場所が限られるため、NIPO CLUBという日系スポーツ施設を利用。プールやサッカー場、野球場もあり、湖で釣りも楽しむことができ、日系人、日本人との出会いも多く、宣教の広がりにつながっていくことが期待できそうです。

○こどもたちの現地校は半日制の午前中のみで授業終了、昼食時から家で過ごすため、毎日が日本の夏休みのようです。午後はそれぞれ宿題やKUMON、水泳、サッカーなどをして過ごします。長男

(真理生：12歳)と次男(湧希：9歳)は日本語学校でも学び始め、外国人のための日本語能力試験に挑戦。三男(聖也：6歳)は1月から小学1年生、四男(翔：3歳)は年少になります。

【祈りの課題】

○第一期目の残り1年の歩みが主によってさらに導かれ、第二期目の祝福、展望につながっていくように。

○まだクリスチャンでない方々との交友関係が祝福され、主の救いの恵みを共に見ることができるよう。特に高齢の日本人一世や若い青年たちの救いのため。

○日本語での働きと並行しながら、しっかりとポルトガル語を習得できるように
○4人のこどもたちの成長、ポルトガル語での学び、日本語の習得、将来の導き、信仰の成長のために(長男は洗礼志願書を提出し、12月末に受洗予定。)



沖縄出身の福島さん宅での交わり



「アンデスの声」で信仰に導かれた岡原さん



日本人一世が多く集まる高齢者の集い



「最後の晚餐」



日本語学校の
昼クラスの
生徒たち



日本同盟基督教団 ブラジル宣教師 浜田献、陽子／真理生、湧希、聖也、翔
住所：Terceira Av. Bloco 1240, Casa 02, N.B.-DF. Brasília BRASIL CEP:71720-008
E-mail: kenyokomario@yahoo.co.jp 第一期目 (2012.11～2016.12予定)